

国内経済情勢

概観

官公需や輸出の漸増、一部民需の持ち直しなどを背景に、生産、出荷は回復傾向を続けている。商品市況の面では、一部に上げ一服などの動きも見受けられるが、大勢としては地合いの改善が続いている。採算面の立ち直りがはかばかしくないこともあって、企業は総じて慎重な投資態度を改めておらず、このため資金需要は依然落ち着いた状態にある。他方、金融機関の貸出態度はかなり積極化しており、こうした事情から、企業の金繰りは一段とくつろぎを増している。

国際収支面では、輸入がいくぶん増勢を強めているものの、輸出の好伸によって経常収支は好調を続けている。ただ、資本収支が依然赤字のため3月末の外貨準備高は前月末比横ばいとなった。

生産出荷の回復傾向続く

3月の鉱工業生産(季節調整済み、速報)は、前月比+1.0%の増加となった。財別にみると、投資財は鋼船の減少もあって、ほぼ横ばいとなっているが、消費財、生産財はかなりの増加を示した。最近の動きをならしてみても、生産の回復傾向はかなり明らかとなりつつある。

3月の鉱工業出荷(季節調整済み、速報)は、前月比-0.6%と減少した。これにはこのところ著伸を続けてきた鋼船の一時的減少が大きく響いており、官公需(セメント、建設用鋼材など)、輸出(自動二輪車など)、一部民需(鋼板、紙など)の漸

増を背景とする出荷の増勢に目立った変化はうかがわれない。

3月の鉱工業製品在庫(季節調整済み、速報)は、前月比+1.0%の増加となった。物品税引下げを控えた家庭用電機や輸出向け自動二輪車など、耐久消費財は著増を示しているが、その他では生産調整品種を中心に減少したものが少なくない。3月の鉱工業製品在庫率は、出荷が上記の特殊要因で減少したことが大きく響き+1.7%の上昇となった。

一方、設備投資については、依然慎重な態度がうかがわれるものの、このところ先行指標である機械受注はいくぶん強含みとなっている。

商品市況の地合いは改善続くも一部に上げ一服などの動き

3月から4月にかけての商品市況をみると、鋼板類、セメント、紙など多くの商品は引き続き堅調を呈し、また化学製品などもようやく底入れ気配を強めるに至っている。このように、大勢として、市況が回復歩調を示しているのは、多くの商品で生産調整の効果が持続しているうえ、官公需が、年度末の追込み工事もあって、次第に本格化し、また一部民需にも立ち直りへ向かうものがあるのでためとみられる。

しかし、こうしたなかで、繊維(綿糸、スフ糸)は需要期入りにもかかわらず、実需の不振を主因に依然ギリ安商状を改めていない。また市況の底入れないし立ち直り気配を映じ、減産緩和など供給増が図られつつある商品の一部(石油、棒鋼など)には上げ一服ないし弱含みに転ずる動きも見

受けられた。

3月の本行卸売物価は、前月比 -0.3% と8か月ぶりに反落したが、これは主として非鉄の大幅軟化や食料品の反落によるもので、その他は鉄鋼、機械、紙パルプをはじめ概して堅調を保った。4月上旬は2月中央訂正安を続けてきた非鉄の急反発もあり、前旬比 $+0.3\%$ の上昇となった。

3月の消費者物価(東京)は、前月比 $+0.6\%$ と続騰した。これには国鉄運賃の引上げが大きく響いているが、野菜なども堅調を続けている。

企業金融は一段と緩和

銀行券は、このところいくぶん強含みの気配を示し、3月も前年同月を多少上回る増発となったが、財政は、月末における公共事業費の支払などが多額に上り、3月としては異例の払超(537億円)となった。この間本行は中旬から下旬にかけての恒例の現金需要などに対処して、債券の無条件買入れ(603億円)や、短資業者に対する一般貸出を行なうなど弾力的な態度で臨んだため金融市場はおおむね平穩裡に推移し、本行貸出は通月では561億円の減少となった。

3月の全国銀行貸出増加額は、4,416億円と前年同月を5割強上回る著伸を示した。これは主として、銀行が期末預金増強との兼合いで貸し進んだためとみられ、企業の資金需要には依然目立った動意がうかがわれない。こうした事情から企業の金繰りは一段とくつろぎを増しているようである。

なお長期国債は3月に1,050億円発行されたが、このうち900億円は資金運用部により引き受けられ、残り150億円は市中で公募された。

輸入増にもかかわらず、輸出の好伸から貿易収支は好調持続

3月の外国為替収支をみると、輸出の好伸を主

因に貿易収支が大幅な黒字(131百万ドル、季節調整後約120百万ドル)となったため、貿易外収支の赤字(61百万ドル)が、期末の関係もあって多少増加したにもかかわらず、経常収支は70百万ドルの受超を示した。しかし資本収支が、インパクト・ローンの引き続き返済超、ガリオア・エロア債務の一部償還などによる長期資本の大幅払超を主因に79百万ドルの赤字となったため、総合では収支が全く見合うかたちとなった。

3月の輸出は、前年同月比、為替で $+7\%$ 、通関で $+13\%$ の増加と、伸び率は多少低目となっているが、これは前年同月の輸出水準が、船積みの極端な期末集中によって異常に高かったためである。季節調整後の実勢でも前月比それぞれ、 $+2\%$ 、 $+4\%$ と好伸を示しており、輸出が漸増を続ける基調に変わりはない。商品別、仕向地別にみても、これまでの傾向とほぼ同様、米国向けを中心に、自動車、電気通信機、合繊などの好調が目立っている。先行指標である輸出信用状は、季節調整後で前月比若干の減少となったが、最近の動きをならしてみると、なお順調な増勢がうかがわれる。

3月の輸入は、前年同月比、為替で $+10\%$ 、通関で $+17\%$ とかなりの増加を示した。季節調整後の実勢でも、為替は前月比 $+10\%$ の著伸を示し、また通関も急増した前月にほぼ匹敵する水準となっている。先行指標をみると、このところ強含みを続けてきた輸入信用状や輸入承認も当月はかなりの増加となった。このように最近輸入の増勢がやや目立っているのは、生産が回復傾向を示していることによるほか、海員ストライキによる船繰り難などもあって、かなり減少した原材料在庫(繊維原料、石油など)の補てんが行なわれているためとみられる。(昭和41年4月28日)